

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

半田南ロータリークラブ 例会／毎週火曜日 半田商工会議所

愛知県半田市銀座本町1の1(半田商工会議所内) TEL.(0569)21-0324 FAX.(0569)23-4546

■会長／岡戸 利直

■幹事／鈴木 宏司

■創立：1980.2.12

■認証：1980.2.25

ロータリーを
実践し



みんなに
豊かな人生を

- 司 会 S. A. A 河合 英樹君
- ソングリーダー 河合 英樹君
- ロータリーソング 「手に手つないで」
「鯉のぼり」
- ピアノ 中田美由紀さん

会長挨拶

会長代理 鈴木 健司君



ロータリーの事業年度も、残すところ1ヶ月あまりになつてきました。岡戸会長が「残り少ないから1度私の代わりに会長挨拶をしてください。」と言ってこのような機会を作つていただきました。何を題材にして挨拶をしようか考えていましたら岡戸会長から5月30日から6月5日までが環境保全週間だからそのことについて触れてくださいと電話がありましたので、私なりに環境保全について思ったことを話させていただきます。

2004年12月10日「持続可能な開発、民主主義と平和への貢献」により環境分野の活動家およびアフリカ人女性として史上初のノーベル平和賞を受賞したケニア環境副大臣のワンガリ・マータイ氏が、京都議定書関連行事のため、2005年2月に日本を訪問した際に「MOTTAI NA」（モッタイナ）という言葉を知つたそうです。3R活動（Reduce）消費削減、（Reuse）再使用、（Recycle）資源再利用の概念を一語で表せる言葉として「MOTTAI NA」を世界共通の言葉として広めていました。日本青年会議所発「もったいない」運動は、1994年から1999年まで国際青年会議所の公認プログラムとして採用され「グローバルMOTTAI NA」ムーブメントとしてJCIの海外拠点がある各国で展開されました。私たちも、当時日本人としてのもったいないを「感謝の心」「謙虚な心」「全ての物を大切にする心」と捉え、啓蒙活動をいたしました。よくおばあさんが「もったいなや、も

つたいなや」といった言葉をおもいおこしてくれば理解できると思います。皆様も、今一度環境保全週間ということを捉え、ご自身にできる環境保全について考え、実行していただくことをお願いします。

幹事報告

幹事 鈴木 宏司君

1. 国際交流協会 総会の件

委員会報告

●出席委員会

第1641回例会 5月27日(火) 天気(曇)

本日の例会は30名の出席にて、出席率は76.92%です。なお、前々回は7名のメーティングにて94.87%に訂正します。

●Smiling Box

石川 勝彦君 明日からR1国際大会でシドニーへ行きロータリーをエンジョイして来ます。

手島 嘉宏君 今日は、私の卓話です。皆様がぐっすりと眠れるようないい話をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

中川 裕之君 誕生日プレゼント、有難うございます。
早退します。 山本 育輝君 川澄 哲裕君
堀田 敏行君

合計6名 9,000円

卓 話



担当 手島 嘉宏君

演題 「明治・大正・昭和の囲碁」

●卓話資料

明治・大正・昭和の囲碁

手 島 嘉 宏

1. 本因坊家

算砂……道策……元丈→丈和→秀和→秀悦→秀元……秀甫→秀栄……秀哉
(跡目)秀策

2. 明治維新

江戸時代の制度が全て崩壊

御城碁、碁所が無くなる。

もっとも、家元制度は、幕府から保護を受けなくなったが、変容して存続。

本因坊秀策（桑原虎次郎。34才で、流行り病で死亡）

御城碁 1 9連勝（負けなし、引き分けなし）

対幻庵因碩との耳赤の1局

本因坊秀甫（村瀬弥吉）

頭を丸めて準備していたのに、御城碁が打てなかった。

秀策の師匠秀和、明治時代になって、秀甫の方が強いといった

囲碁の普及について功績 cf 中江兆民の「近代非凡人 31人」に載る
方円社という会社を立ち上げる。

海外にも紹介、段位制を廃止し、九段をナンバーワンに。

本因坊秀栄（秀和の子。俗姓土屋、一時林）

江戸時代の碁（近世の碁）を完成させた。

本因坊秀哉（田村保寿）

雁金準一との一局（石の取り合いで非常に面白い碁）棋正社対抗戦

最後の争碁と言われる。連載した報知新聞(読売の前身)が良く売れた。

最後の家元で、家元制度での最後の名人。川端康成「名人」のモデル
本因坊戦の創設に尽力

呉清源

今年で100才 碁の神様 全盛期は、まさに神がかっていた

新布石法という本が売れる。現代の碁はここから始まる

打込十番碁（別格木山）で、当時の一流棋士を先相手以下に打ち込む。

二十世紀並びに二十一世紀の碁を語るのにこの人なしでは語れない。

いわゆる碁バカ 碁しか頭がない

道策、秀策、呉清源

囲碁十訣

囲碁十訣

出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

囲碁十訣(いごじゅうせつ、圍棋十訣、围棋十诀)は、囲碁の心構えを説いた、中国古来より伝わる10の格言。唐代の名手王積薪の作と伝えられるが、北宋時代の作とする説もある。

宋代の詰碁集『玄々碁經』の序の部に王積薪作として収められ、その後の多くの碁書にも収録された。南唐の高官から北宋の太祖に仕えて碁の相手を務めた、潘摶修が太祖に献上した書物『棋說』の中で、「十要」として記した碁の原理が囲碁十訣であるとも言われる。

「碁經十三篇」(囲碁九品を含む)や、「碁法四篇」などと並んで、古典的な囲碁論の代表的なもの一つとなっている。本因坊秀策は十訣の書を石谷広策に残し、これが後に打碁集『敲玉余韵』の冒頭に掲げられた。

十訣と大意

- 一、不得貪勝(貪って勝とうとしてはいけない)
- 二、入界宜緩(敵の勢力圏では緩やかにすべし)
- 三、攻彼顧我(攻める時には自分を顧みよ)
- 四、棄子争先(石を捨てて先手を取れ)
- 五、捨小就大(小を捨て大を取れ)
- 六、遂危須棄(危険になれば捨てるべし)
- 七、慎勿輕速(足早になりすぎるは慎め)
- 八、勤須相応(敵の動きに応じるべし)
- 九、彼強自保(敵が強ければ自らを安全にすべし)
- 十、勢亟取和(孤立している時には緩やかにすべし)

(注)一の「不得貪勝」を日本で「貪れば勝ちを得ず」と訳して、「貪不得勝」と誤記する場合がある。

また後世にはこれに倣って、新囲碁十訣なども種々考案されている。

参考文献

- 安藤如意、透辺英夫『坐隱談叢』新樹社 1955年
- 田嶽林、祝士雄『中国囲碁外史 27』『棋道』1988年11月号
- 高木祥一解説『玄々碁經』教育社 1989年
- 平本弥里『囲碁の知・入門編』集英社 2001年

「<http://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=囲碁十訣&oldid=47490006>」から取得
カテゴリ: 围碁の書物 | 围碁の術語 | 名数10

- 最終更新 2013年4月16日 (火) 21:53 (日時は個人設定で未設定ならばUTC)。
- テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。



次回の例会

第1643回例会 「シドニー世界大会報告会」
6月10日(火) 於 半田商工会議所